



2010年度 事業報告書

2010年4月1日－2011年3月31日

ANNUAL REPORT

学校法人 **アジア学院**
アジア農村指導者養成専門学校

2010年度の成果



29人の新卒業生

2010年度は「ポジティブな年」と言える。今年の学生たちは研修の初めから終わりまで、驚くほどのエネルギーと学習意欲を持っていた。ここでの学びをそれぞれの状況にどう活かしていくのかということに関する質問と話し合いが活発に行われ、国に待つ人々の利益のために何とかしたいとする彼らの心が強く現れていた。大きな期待と共に、16カ国に新たに29人の卒業生を世界中で働く卒業生の輪に加えることができた。



ブラジル、コンゴ、マラウイ、ジンバブエ

アジア学院の研修の成果を世界のできるだけ多くの農村コミュニティーに波及させるために、私たちは新しい地域にも積極的に研修の機会を提供するよう努力している。今年度は新たに4カ国から初めての学生を受け入れることができた。新しい地域の学生たちの発掘には、ルーテル教会、合同メソジスト教会 (UMC)、英国聖公会福音宣布協会 (USPG)、米国合同教会 (UCC) の協力があつた。



新農業研修棟

2008年には絵に描いた餅であったが、今は、機能的で、エネルギー効率が高く、見映えのよい農業研修施設に。大震災により工期が遅れたが2011年7月に完成した。



「成長の記録」と「振り返りの日」

アジア学院は個人が大いなる成長と転換を遂げる場所である。学生たちがそれぞれ内的成長を遂げる困難な課程を手助けするために、「成長の記録」と「振り返りの日」が導入された。この新しいカリキュラムは学生たちに好評で、多くの学生たちが母国での仕事に導入していきたいと答えた。



7.7トンの米を収穫

2010年も豊かな収穫を得ることができた。米の収量は昨年を上回る7.7トンだった。



卒業生同窓会

今年も多くの卒業生が世界各地で集まり、それぞれの活動について話し合い、励まし合い、アジア学院の精神を確認しあつた。ケニア、スリランカ、ネパール、フィリピン、インド・マニプール州で開催。



だんだんの会

研修農地を貸してくださっている地主さん、家畜の飼料の材料を無償で提供してくださる近所のスーパーや魚市場の方々、お豆腐屋さんなど、特に農業関連でお世話になっている方々に感謝の意を示し、交流を深めるための初めての試み「だんだんの会」が、2010年度の研究科生であった竹之内萌愛さんの発案で行われた。皆で餅をつき、ゲームなどをして楽しいひとときを過ごした。



養豚プロジェクト

4人の学生たちのイニシアチブで、母国で入手可能な餌のみを使って出荷までの全ての面倒を見、さらにハムに加工し卒業式にふるまった。飼育→出荷→加工→消費までの一連の作業を学生たちだけで行うという初めてのプロジェクトが実施された。



豚肉販売

「1頭の豚を塊で提供することで『命』というものを頂くことを感じてもらう」。この精神の元、昨年アジア学院産の豚肉を販売する「豚の会」がスタートした。今年度は販売が軌道に乗り、20件の消費者と2件のレストランに定期的に塊肉が届けられた。消費者には「アジア学院ファーム通信」が肉と共に届けられ、消費者とより深くつながる努力を行った。また「豚の会」とは別に、スライス肉の個別販売も始めた。



FAMSIG

Farm (農場) — Meal Service (食堂) — Income Generation (補助活動) 間のコミュニケーションを促進するため、また日々の作業の連携を図るため、過去に行っていた農場ミーティングを改良する形で再開した。これは学院のFoodlifeを円滑に進める上で不可欠のコミュニケーションの場である。



ピースコンサート

9月23日にアジア学院後援会主催で第2回ピースコンサートが地元黒磯文化会館で開かれた。ボーカリストの鈴木重子さんとピアニストのウォン・ウインツァンさんがチャリティーで平和を願う美しい歌と演奏の数々を披露して下さり、650人の観客を魅了した。最後にはリベリアからの学生、メアリー・テネン・パカが平和のメッセージを届け、学生全員による「Take My Hand」(アジア学院テーマソング)の合唱があつた。130万円の収益金はアジア学院に寄付された。

ごあいさつ

2011年3月11日の東日本大震災による当学院の被害に対しまして、多くの皆様から励ましの言葉や災害復旧のためのご寄付を頂きましたことを心より感謝申し上げます。皆様からの温かいお支えとお祈りによってアジア学院の働きがあることを、アジア学院関係者一同強く感じています。現在、アジア学院は総力を結集して震災復興に取り組んでいますが、震災復興事業報告は、2011年度事業報告書の中でさせていただく予定をしています。また、震災と共に起こりました福島原発事故の放射能漏れによるアジア学院の土壌汚染の問題については、今後とも向き合っていかなければならない課題だと考えています。私たちは3月11日以降災害復旧という困難な問題の中に置かれていますが、「苦難は忍耐を、忍耐は練達を、練達は希望を生む」(ローマの信徒への手紙)ことを信じて、歩み続けて行きたいと願っています。

ここに2010年度事業報告及び会計報告をお届けいたします。

昨年に引き続き2010年度においてもアジア学院は、法人財政の健全化に取り組んできました。昨年度に続き2010年度も単年度決算として黒字を計上することが出来たことは感謝でした。また、2010年度学生に対しましてはこれまで以上に国内及び海外から奨学金のお支えを頂きました。また、法人として補助活動部門を通してアジア学院生産物の販売を行い、自助活動の努力を続けています。アジア学院創立から今日まで公的支援を得ていないアジア学院が存続しえたのは、皆様からの強いお支えとお祈りの賜物と感謝しています。

2010年度は40周年記念事業の一つとして農業研修棟建替え工事を行い、本年5月14日に無事新農業研修棟献堂式(奉獻式)を行いました。震災の影響もあり、完成が年度を越えましたが、40周年記念事業を覚えてお支えくださいました皆様に新農業研修棟完成のご報告と感謝を申し上げます。今回の震災のために、本館の建設は震災復興工

事の一部として行うこととなりますが、2013年の40周年に向けて、卒業生調査やシンポジウム開催などの必要な取り組みは続けて行ってまいります。

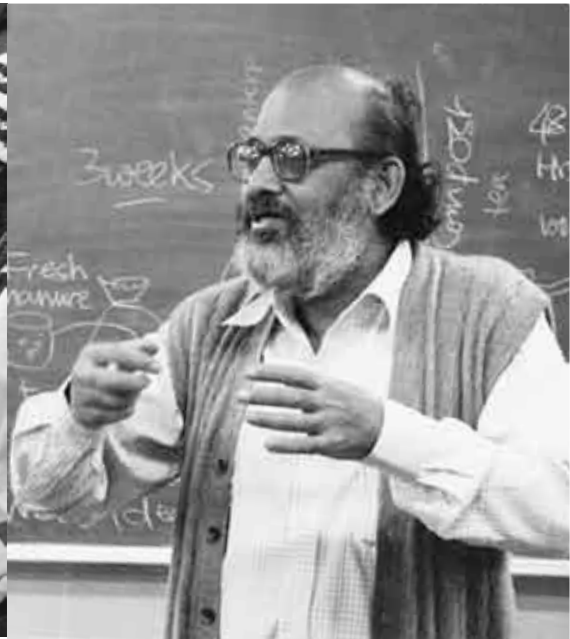
2010年度は、4月に入学した学生29名と1名の研究科生が全過程を終了し、無事卒業しました。30名の学生の内訳は、アジア17名、アフリカ7名、キリバス1名、ブラジル1名、日本4名でした。ブラジル、コンゴ、マラウイ、ジンバブエからはじめての学生を迎えたことは喜びでした。教務に関しては、本報告書の「研修報告」をお読みください。

2010年度も卒業生会が、スリランカ、インド、フィリピン、ネパール、ケニアなど各地で開催されました。卒業生間のネットワークと情報交換の場として重要だと考えています。出来るだけスタッフが卒業生会に出席し、卒業生の声を吸い上げ、カリキュラムに反映する必要があると考えています。

更に2010年度を通して幅広い年齢層の人々や様々なグループの人々がアジア学院を訪問し、学生と交流し、学生に励ましの言葉をかけてくださいました。また海外からカンボジアの超党派国会議員団や独立前の南スーダンの高官などが、有機農業視察のためアジア学院を訪問されました。アジア学院での青年海外協力隊の補完研修も続いています。アジア学院が負っている役割の広がりを感じずにはおられません。

後援会の皆様、寄付金・奨学金・学生旅費を提供してくださった皆様、研修プログラム、アジア学院サンデー、「アジアの土」発送、バザー物品販売に協力をしてくださった皆様、ボランティアの皆様、アジア学院のためにお祈り下さった皆様、そして見えないところで様々な協力をしてくださった皆様に、この場をお借りして心より感謝を申し上げます。

学校法人 アジア学院 理事長 丹羽 章
アジア農村指導者養成専門学校
校長 大津 健一



2010年度 研修報告

教務 大柳 由紀子

今年度の研修の特徴は「ポジティブな年」と言い表せません。学生達は最後まで高い意識と前向きな姿勢を持ち続けました。学生達は日々の全てに意味と意義を見出そうとし、失敗でさえも学びとし、争いでさえも学びとしてきました。そしてそれは学びの姿勢にとどまらず、地域資源の活用と伝統知識・文化の尊重へと転化され、さらにそれは農業技術だけでなく社会福祉・教育・平和構築・環境にまで及びました。目指すべき開発の方向性はどこか、持続可能な発展とは何か、そもそも開発とは何か、などといった点も頻繁に話し合われました。「私の国(地域)は貧しいと思っていたが、本当は豊かだと気付いた。何もなかったと思っていたが、多くのものに恵まれていた。人々は教育がないと思っていたが、彼らこそが地域に伝わる知恵をもつ素晴らしい人々だと気付いた。」と学生達が語ったとき、ここでの研修の目的の一つは達せられたのではないかと感じました。その意識をもってこそ、学院の内外で彼らが学んだ有機農業技術と哲学が生きてくるのだと信じています。

学生達の語る夢の多くは、健全な環境と安全な食を得ることのできる持続可能な社会・コミュニティを築くことです。その手段としての有機農業であり、その姿勢としてのリーダーシップであるという点は、繰り返し多くの学生に語られ、学院の目指すあるべき農村開発の方向性、すなわち真の意味で豊かで、持続可能で、食糧や資源の自給を基盤とした

自立した農村を作ることが、しっかりと学生達の心に届いたのだと感じました。

今年度からの新たな試みとして、Growth File 「学びの記録」が導入されました。全学生・全職員が一冊ずつのGrowth Fileを持ち、心に残った学びを記録していくためのものです。さらに月に一度、その学びを互いに分かち合うことで、自分の学びを別の視点から深めていくことを目指しました。このシステムにより、学院での学びはクラスにとどまらないのだということを学生達は明確に理解し、失敗さえも学びの一環であるとの意識も強く見られました。

05年度より始まったグループ単位の農場管理は、今ではアジア学院における有機農業技術とリーダーシップ研修の中心となりました。学生達は四つのグループに分かれ、それぞれのグループが畑と家畜を担当します。2週間ごとに交代するグループリーダーは、皆の意見を集めて計画を立て、家畜飼育・野菜生産・食事準備の責任を負います。いさかいが起きれば解決すべく奔走し、各自の健康に目を配り、ミーティングを召集し、家畜や畑を観察するなど、農村指導者としての資質が試される凝縮した二週間となります。グループ内でのリーダーの期間を終えると、担当職員たちと共に二週間を総括し、これから自分がいかにリーダーとして成長していくべきかを振り返りました。



アジア学院における指導者の理想像は、サーバントリーダーシップ（人に仕える指導者）です。学生達は頻繁にこの言葉を耳にしますが、実際に学生達はそのサーバントリーダーシップを実践していくのは日々の生活の中です。いかに美しい言葉で飾ろうとしても、実践することは大きく異なりま

す。9か月のトレーニングを通して、彼らが目指すべき真のリーダー像が、本の中ではなく実際の存在として感じられたようでした。

16ヶ国から来た30人の学生・研究生が、学院で学んだことをそれぞれの地で活かしてくれることを願ってやみません。

2010年度行事 カレンダー

4月

- 05日 研修開始
- 05日～16日 日本語研修
- 17日 第38回入学式

5月

- 11日～13日 小川町研修(埼玉県)
- 19日 那須疎水開拓史学習
- 21日 田植え(全共同体作業)
- 25日～26日 学生の送り出し団体・自己紹介

6月

- 05日～07日 全国教会婦人会連合世界教会委員会主催
ホームステイプログラム
- 27日 ARIサンデー(栃木県下教会(主に教団教会))

7月

- 20日 中間評価会
- 21日 足尾銅山鉱毒問題学習
- 25日～31日 夏期個人研修

8月

- 25日～9月04日 農村地域研修
(山形県置賜地域/庄内地域)

9月

- 16日 アジア学院創立記念日(お話:郡司昌佳氏)
- 27日 稲収穫(全共同体作業)

10月

- 09日～10日 第38回「収穫感謝の日」
- 23日～24日 東京ユニオン教会 ホームステイプログラム

11月

- 10日～21日 西日本研修旅行

12月

- 02日～08日 口頭卒業レポート発表会/最終面接
- 11日 第38回卒業式

1月

- 10日～2月28日 アジアインターンシッププログラム
(日本人卒業生対象、インドネシア 北スマトラ)

講義・実習・見学先一覧

2010 講義

講師

*は特別講師

【日本語、日本文化】

*小倉 恭子

【指導者論】

アジア学院の指導者論
 アジア学院の歴史と建学の精神
 Servant Leadership
 参加型農村調査法
 Independent Learning
 発表技術
 報告書作成指導
 時間管理
 紛争解決
 非暴力コミュニケーション

大津 健一
 荒川 朋子
 荒川 朋子、荒川 治、大柳 由紀子
 荒川 朋子、大柳 由紀子
 Steven Cutting, *美紀 Cutting
 大柳 由紀子
 Steven Cutting
 Timothy Appau
 *石原 明子(熊本大学准教授)
 *Francis Beausoleil (NVCトレーナー)

【開発論】

グローバルイゼーション
 ローカライゼーション
 エコビレッジ
 環境と開発
 栄養概論
 アジアの人身売買の問題
 那須疎水と西那須野開拓の歴史
 足尾銅山鉛毒事件と田中正造
 ジェンダー論
 開発とアジア学院の使命
 共助組合論
 世界平和構築への提言

*立教大学ESD、DEAR開発教育協会、ISDEP
 *鎌田 陽司(NPO法人「懐かしい未来」代表)
 *鎌田 陽司(NPO法人「懐かしい未来」代表)
 *田坂 興亜(アジア学院理事)
 竹内 和彦
 *甲斐田 満智子(国際こども権利センター)
 *田村 修也
 *坂原 辰男(田中正造大学)
 荒川 朋子
 *JB Hoover(アジア学院北米後援会 iLEAP代表)
 遠藤 抱一
 *太田 一男(酪農学園大学名誉教授)

【持続可能な農業・技術】

持続可能な農業概論

*Ardhendu Shekhar Chatterjee
 (76年卒業・インド 農業アドバイザー)

野菜・作物概論
 稲作
 畜産概論
 家畜繁殖
 養鶏
 家畜飼料概論
 農業技術実習
 作物病虫害管理
 家畜病気管理
 アグロフォレストリー
 化学農業の危険性
 熱帯における自然農業
 パーマカルチャー
 日本の農業概論
 農協の役割
 適正技術
 生産者と消費者の提携

荒川 治
 荒川 治
 Gilbert Hoggang、壁谷 早苗
 Gilbert Hoggang、壁谷 早苗
 Timothy Appau
 Gilbert Hoggang、Timothy Appau
 荒川 治、山口 敦史
 山口 敦史
 Gilbert Hoggang
 *山田 祐彰(東京農工大学講師)
 *田坂 興亜(アジア学院理事)
 *村上 真平(自然農法家)
 *酒匂 徹(有機農家)
 *菊地 創(元アジア学院校長)
 *鶴留 尚之(全国農業協同組合中央会)
 Ban Hyung Wook
 荒川 朋子

【その他】

在日外国人の現状

*戸枝 政明、込山 弘泰(那須塩原警察署)

Practical Field Study (有機農業実習)

以下の有機農業、畜産、食品加工の論理的および実践的知識の習得

ぼかし肥作り	養豚(人工授精、出産、去勢)
堆肥作り	家畜衛生
土着菌の採取と活用	飼料配合
天恵緑汁	育雛
魚のアミノ酸資材	発酵床式畜舎
水溶性カルシウム	人工孵化(鶏、アイガモ、魚)
炭焼きと木酢作り	発酵飼料作り
籾殻くん炭	サイレージ
自家採種	肉加工(ソーセージ、ハム、)
練り床を利用した苗作り	スモーク)
水稲アイガモ農法	

コミュニティーを基礎にした活動

グループによる農場管理活動(野菜作物栽培、および畜産) フードライフワーク

- 自給自足のための農作業および給食準備
- コミュニティーワーク
- 田植え、稲刈り、森林管理作業など
- 内的成長を促す活動
- コンサルテーション、朝の集会、Growth File、振り返りの日
- 口頭研究発表会
- 学校行事
- 収穫感謝の日(Harvest Thanksgiving Celebration)
- 入学式、卒業式
- コミュニティー形成活動
- ピクニック、遠足、スポーツイベント
- 国際交流プログラム、ホームステイプログラム

見学先・交流団体一覧 (敬称略)

《農業関連見学・研修先》

《栃木県内》

[那須塩原市] 東関根合同育苗センター、久留生農場(ウド栽培、牛)、江連養鶏所、江連いちご農園、関根養魚場

[那須烏山市] 帰農志塾(有機農業)

[市貝町] ウィンドファミリー農場(有畜複合農業)

《埼玉県》

金子美登・石川宗郎(有機農業)、桑原衛(有機農業・バイオガス)、田下隆一(有機農業)

《福島県》

村上真平(自然農法)、やまなみ自然農場

《見学先・交流団体》

《栃木県内》

[那須塩原市] 那須塩原市役所、田村修也(西那須野開拓史)、西那須野幼稚園、那須塩原市立槻沢小学校、那須野ヶ原博物館、ゆいの里、エルムの園、日本基督教団西那須野教会、日本基督教団那須野ヶ原伝道所、家の教会しおん、那須塩原市ボランティア協議会

[大田原市] 大田原市立黒羽中学校、黒羽ロータリークラブ、大田原カトリック教会、国際医療福祉大学、かりいほ

[矢板市] 矢板幼稚園、日本基督教団矢板教会

[塩谷町] 日本基督教団塩谷一粒教会

[宇都宮市] 栃木県立宇都宮北高等学校、栃木県立宇都宮女子高等学校、日本基督教団四條町教会、日本基督教団宇都宮上町教会、日本基督教団鹿沼教会、松が峰カトリック教会、日本キリスト教会松原教会

[さくら市] 日本基督教団氏家教会

[栃木市] 日本キリスト教会栃木教会

[足尾市] 足尾銅山鉍毒事件学習(旧松木村跡、足尾製錬所)、田中正造大学(坂原辰男)、日本基督教団足利教会、日本基督教団足利東教会

[佐野市] 渡瀬川遊水池

[小山市] 日本基督教団小山教会

《他府県》

[埼玉県] 丸木美術館

[群馬県] 渡良瀬川鉍毒根絶太田既成同盟会(板橋明治)

[東京都] 日本キリスト教団婦人会連合、日本バプテスト同盟婦人会、東京ユニオンチャーチ、アジア婦人友好会、アジア学院後援会・会員、各地ロータリークラブ

《農村地域研修(夏学期)》

《山形県置賜地区》 渡部務・美佐子、原田俊二・加矢乃、菅野芳秀、長井市レインボープラン、NPO法人市市場「虹の駅」、基督教独立学園(安積力也校長)、小国町役場(緑のふるさと協力隊)、黒沢巖(かのにの精米所)、高島共生塾(遠藤周次)、高島町住民生活課エコタウン推進室、米沢郷牧場、JA山形おきたま農業組合、JA山形おきたま農業組合営農センター、川西ときめきセミナー(佐藤恵子、原田加矢乃)、川西町役場(原田俊二町長・産業振興課)、しらたかノラの会、米沢興譲教会、草岡ハム加工組合、登坂賢治・美紀子、秋津ミチ子、小関秀一、村岡陽子

《山形県庄内地区・秋田県仁賀保町》 加藤鉦一、月山パイロットファーム(相馬一広)、共立社鶴岡生協(佐藤誠一)、志藤正一、安

藤正、庄内たがわ農業協同組合、日本基督教団荘内教会(矢沢俊彦)、日本基督教団鶴岡教会(藤村直子)、藤島町農村環境改善センター、庄内協同ファーム、鶴岡市藤島庁舎エコタウン室、みます元氣村(加藤興治)、鶴岡市立加茂水族館、曹洞宗太白院(今野真亮住職)、佐藤昌司、茨新田生産組合、鈴木完司、鶴岡農協西郷支所、有限会社ドリームズファーム、佐藤喜作(秋田県仁賀保町)、土田牧場(土田雄一、秋田県仁賀保町)

《岩手県》 ウレシパモシリ自然農園(酒匂徹)

《西日本研修旅行》

《東京都》 農村伝道神学校

《静岡県》 聖隷学園、聖隷クリストファー中・高等学校、遠州栄光教会、山中忍

《滋賀県》 近畿環境保全センター

《大阪府》 大阪南 YMCA、関西沖縄文庫(金城馨)、NPO 釜ヶ崎支援機構、暁光会大阪支部(森下敏行)、ホストファミリーの皆様

《福岡県》 ウィンドファーム(中村隆市)

《熊本県》 エコネットみなまた・はんのうれん(大澤忠夫・つた子・菜穂子、松永邦雄・永野隆文、杉本啓子)、水俣考証館、ほっとハウス、ホストファミリーの皆様

《広島県》 広島平和記念資料館、広島平和文化センター(スティーブ・リーパー)、岡田恵美子(被爆証言者)

《京都府》 丸谷一耕、亀山市たい肥センター、関西盲導犬協会、同志社大学ハビタット、ホストファミリーの皆様



① 家畜

学生たちの故郷である農村では、鶏を鶏舎でまとめて飼っている農民は少なく、家の周りで四から五羽の鶏を放し飼いにして育てていることが多い。鶏は、家から出る残飯と家の周りの虫や草を食べて育ち、卵を六、七個産むと、その上に座って卵を温め始める。そして雛が孵化するまで、卵を産むことはない。村人にとって、卵や鶏の肉は時々食べることでできる贅沢品である。

一方、アジア学院では卵や豚肉を生産販売するため、残飯や白ぬか、米ぬか、おから、大麦、大豆かす、魚のあらなどを発酵させ、十分な餌を与えて、鶏に毎日卵を産ませ、豚を6ヶ月で100kg以上に育てる。しかし、これらの餌は、学生の国によっては、十分手に入らないものも多い。より学生の国の状況に適した家畜の育て方を模索し、今年は、学生数名が自分の国の農村で手に入りそうなものだけを使い家畜を育てることに挑戦した。より学生の国の実情にあった研修を、学生自らが発案、計画し、実施することができたことは大きな収穫であった。

また、農産物の販売を通して支援者をつながり、アジア学院のミッションを果たしていくことはとても重要である。そのためにも、コンスタントに農産物を生産、自給、販売し、尚且つ学生が学べる環境を整えることが必要である。学生が自分の国で手に入るものだけを使って家畜を育てれば、生産量は自ずと下がってしまう。毎年このバランスを取るのが困難なのだが、今年は生産量も安定し、より学生の国の実情に合った研修をすることができた。

さらに、この生産（農場）と自給（食堂）と販売（補助活動部）のコミュニケーションの場として、定期的にミーティングを行った（FAMSIG ミーティング）。このミーティングにより、よりアジア学院のフードライフに対する理解が深まった。

② 野菜作物

【種の自給】

多くの国で、多くの農民が高い収穫量と高収入を夢みて、遺伝子組み換えの種を購入する。例えばフィリピンでは、農民がトレーダーと呼ばれる会社から、遺伝子組み換えのとうもろこしの種を購入する。この農民は、必ず除草剤を買わなければならない。なぜなら、このとうもろこしは、たくさん実をつけるように遺伝子が組み換えられているのではなく、除草剤をかけても枯れないように遺伝子が組み換えられているからだ。つまり、除草剤とこの遺伝子組み換えの種はセットなのである。さらに、高収量品種というのは、化学肥料を与えるということが前提となっている。貧しい農民は、高価な遺伝子組み換えの種と除草剤、化学肥料をトレーダーから購入することができない。そのためトレーダーに借金をして購入する。しかし、借金返済の利率が高く、一度トレーダーから借金をして農業を始めたものは、この借金を返すために、さらにトレーダーからお金を借りて農業をすることになる。農民の収穫物は、ほとんどこのトレーダーに購入される。この時、農民の売り上げは、この借金分を差し引かれて支払われるので、農民の手にはほとんど利益が残らない。

このような負の悪循環に陥ることなく、地域の気候や風土に合った病気にかかりにくく育てやすい種を、農民自らが育てて守っていくことが農民の真の自立には必要不可欠である。

学院では、米、小麦、大豆、小豆、さつまいも、にんにく、はやりなどとは従来から自給していた。今年は、日本人の研究生が中心となって、かぼちゃ、ナス、トマト、きゅうりなどの固定種を有機農家などから譲ってもらい、さらなる種の自家採種に挑戦した。



【いのちのつながり】

クリスマスにイチゴケーキを食べるのが違和感なく常識となった現代社会において、旬を大切にするのが、アジア学院のフードライフである。さらに、野菜を提供するだけでなく、土作り、種作りから食卓まですべてのいのちの繋がりを大切に。しかし、農民は野菜作りに専念するも、食卓の事情やニーズが分からず大量に生産し無駄にしまったり、不足させてしまったりする。そこで、今年から始まったのが食堂の冷蔵庫からフィールドの野菜や山菜までを代表者が週に一回観察を行うF(畑)K(台所)マネージメントである。この時間を持ち、考えることによってこんなことがあった。「大量にトマトが余っているけど何かいい方法はないか」と皆で意見を出し合った。そこで、出てきたのがトマトピューレに加工することであった。ある学生から、「夏には、トマトを大量に過剰生産で捨てていたけど、トマトピューレは海外から輸入したものを購入していた。僕も国に帰ってから加工しよう。」という意見も聞かれた。いのちのつながりをともに考えることによって発見できた学びであった。お金があるからといって、旬でない野菜を買ってすませることによって、大切なことに気づかないことがある。しかし、FKマネージメントの導入によって野菜作り、加工食品、給食、過剰物の販売のつながりと意味を理解し、フードライフの重要性を体感することができた。

(農場長 荒川 治)

③ 給食

今年のキッチン実習では、学生たちにまずバランスのとれたメニューの必要性を訴えた。各食材を赤・緑・茶色などと色分けし、色を組み合わせることで栄養のバランスをとることを教えたところ、実践しやすいとの反応があった。またキッチンでは主菜を担当する学生に「今日は54人食べる人がいます。7テーブルをセットして下さい。私は豚肉と青野菜で炒め物にします。副菜はxxさん、スープはxxさん、お願いします」などと指示を出させるようにした。限られた時間のなか、複雑な調理作業を管理させることは、リーダーシップのよい訓練となった。

また農場スタッフと協力して、学生数人とキッチン担当者で定期的に畑を見回り、収穫の予定を立てるシステムを組んだ。適量の野菜を、遅すぎず早すぎず、いいタイミングで収穫する——当然のことだが、キッチンからの視線で収穫をみることは新しい体験だったようだ。加えてせっけんの作り方、ヨーグルトの作り方について研修を行った。

アジア学院の食堂は学校給食というだけではなく、全国や海外から来られるビジターの方々とも食事を分かち合う場所でもある。その機会が増やせるよう、調理メンバーや他セクションの協力を得てキッチンの収容人数を増やした。これも今年の重要な成果であったと思う。

(給食担当 竹内 和彦)



4 適正技術

堆肥を作るには、好気性細菌による発酵を促すための何度かの切り返しが必要です。毎回堆肥を切り返すのは非常に大変なことです。

そこで、かつてアジア学院は「デンマーク」豚小屋の後ろに勾配のある堆肥エリアを作りました。それは、堆肥を作る代替的方法の一つであります。そのテラスに堆肥を落とすと、一番低い層に完熟堆肥ができます。しかしある日、人が堆肥のテラスで足を踏み外し、怪我をするという事故が起きました。その後堆肥テラスは放置されたままとりました。

しかし私達は、そのテラスは魚のためのペレット飼料を乾燥させる太陽熱乾燥機としてちょうどよい場所であることに気づいたのです。そこで以下のような手順で、太陽熱乾燥機を作りました。

- (1) すべてのテラスを黒色で塗り、竹製のフレームを設置し、ビニールで覆った。
- (2) テラスの最上部に温室を作り、ビニールで覆ったテラスに集められた温風が温室に流れるようにした。
- (3) 温室内に乾燥箱を作り、その上に空気の吹き出し口を作った。

(共同体生活 バン・ヒョンウック)

2010年の主な農産物

主な穀物・野菜	米	7752kg (内 みそ用玄米150kg)	207a
	小麦	1,328kg (内 醤油用330kg)	54a
	そば	27.7kg	4a
	じゃがいも*	880kg	15a
	さつまいも	1012kg	7a
	さといも	1,274.5kg	5a
	大豆	350kg (内 醤油用330kg)	40a
	黒大豆	180kg (内 みそ用150kg)	13a (自然農3a)
	小豆	65kg	4a
	人参	4048kg (内 人参ジュース用1,380kg)	
	かぼちゃ	455kg	6a
	たまねぎ	919.5kg	10a
	にんにく	220.6kg	4a
	えごま	115kg	15a

畜産	たまご	77,800個
	鶏肉	452kg
	牛乳	4,472kg
	豚肉出荷	90頭
	豚肉自給用	8頭
	豚肉販売	37頭
	豚肉市場	45頭

野菜作物加工品	えごま油	103本
	みそ	
	(大豆)	(150kg)
	(玄米)	(150kg)
	醤油	1,952本
	(大豆)	(330kg)
	(小麦)	(330kg)
	人参ジュース	5,048本(1,380kg)

*じゃがいもは長雨によってほとんどが腐敗してしまったため、メノビレッジ長沼(北海道)から900kgのじゃがいもの寄付を頂き、不足を補うことができた。

① 補助活動部 活動内容

2010年度は「地域とつながる」をテーマに、「つながる古本市」、「つながるフリーマーケット」、「つながるワークショップ」といったイベントを開催し、「収穫感謝の日」以外にも気軽に足を運んでいただけるような雰囲気作りを心がけた。その結果、アジア学院の存在を知りつつも、今まで来校したことがなかった方々が多数訪問して下さった。

特に、全国の支援者の方々から送られてきた古本を集めて開催した「つながる古本市」は毎回好評で、アジア学院の恒例行事として定着しつつある。また、2010年秋から、「第2期エコ・ビレッジ・デザインエジュケーション (EDE)」が那須セミナーハウスを会場に全9回開催され、新しいネットワークが広がった。



② 販売について

2009年秋ごろより試験的に豚肉販売を開始していたが、2010年度より「アジア学院豚の会」を発足し、会員を募って、毎月1回アジア学院の新鮮な豚肉を郵送でお届けする提携型販売方式を開始した。今まで全ての豚を一般市場に出荷していたが、この方式によって一ヶ月に最低2頭は消費者の方々に直接販売することが出来るようになった。

アジア学院の豚肉は通常のスーパーで売られている豚肉と違い薬剤や輸入配合飼料を使わずに飼育されている。また、新鮮な生肉をそのまま発送しているため、味もよいと好評をいただいている。

今後はさらに販路を拡大し、畜産部門の収入の重要な柱となることを期待している。

(販売・広報担当 遠藤 優子)

<2010年度 補助活動部企画イベント>

+ 幸せの食卓ワークショップ	4月3日
+ つながる古本市	4月5日~11日
	2月19・20・26・27日
同時開催：ペシャワール会写真展	
+ “じぶん”と“せかい”とつながるワークキャンプ	5月1日-5月5日
+ つながるフリーマーケット	5月15日
+ つながるワークショップ	
コーヒー編	6月26日
お茶編	12月18日

<2010年度 参加したバザー・外部企画>

アースデイ那須、映画上映会「ミツバチの羽音と地球の回転」、ワークすみぎわバザー、聖テモテ教会バザー、聖公会北関東教区バザー、氏家教会バザー、聖公会神学院バザー、マメゾン光星ベタニアバザー、ICU教会バザー、キャンドルナイト@黒磯、癒しの森フェア2010、那須ショートフィルムフェスティバル、山のシュール、フェアトレードフェスタ@宇都宮、ジャズフェスタ@黒磯、宇都宮北高校バザー、朝市@UNICO、グローバルフェスタ JAPAN 2010、栃木インターナショナルフェスティバル、マ・メゾン光星祭、聖テモテバザー、クローチェバザー、聖三一教会バザー、代田教会バザー、武蔵野教会バザー、大田原産業文化祭、西那須野幼稚園バザー、スペクタクル・イン・ザ・ファーム、Winter Fes@ American School in Japan

アジア学院後援会

ARISA - Asian Rural Institute Supporters Association



ピース・コンサートで演奏するウォン・ウィンツァンさん(右)と鈴木重子さん(右)

① 新規会員勧誘活動

各種イベントにおいての勧誘やチラシの配布などによって、68名の新規個人会員が後援会に入会、25の協賛団体が後援会をご支援くださった。

② ピースコンサート・「ピースアート」ポスター展の実施

【2010年9月23日 那須塩原市黒磯文化会館】

今年は、ヴォーカリスト鈴木重子さんと、ピアニストであり即興演奏家でもあるウォン・ウィンツァンさんをお招きし、黒磯文化会館にて盛大にピースコンサートを開催することができた。お二人には平和をテーマにした世界の美しい曲の数々を演奏して頂いた。

コンサートの前には、アフガニスタンのペシャワール会で現地ワーカーとして活動をしていた職員山口敦史が「アフガニスタン農民と共に生きる」と題したピーストークを行なった。アフガニスタンの現状と共に彼の平和への強い想いを聞くことができた。

当日来場者数：650名

純収益：1,388,110円(アジア学院に奨学金として寄付)

コンサートに先立ち「ピースアート」ポスター展を那須野が原ハーモニーホールにて開催した。このポスター展は、2001年9月11日の同時多発テロ惨事の悲しみを受け、100名の多国籍アーティスト有志が作成したもので、全国各地で開催されていた。私たちはこのポスターをコンサート当日会場にも展示した。

③ 高校生フィリピンワークキャンプの開催

【2010年8月16日～26日】

参加者10名、訪問地：フィリピン・ジェネラルナカル州

2004年にフィリピンを襲ったスーパー台風被災地で活動する卒業生ゾシモ・ブエラノ氏(88年卒)の活動に参加。地元の高校生たちとの交流やホームステイなども行なった。

④ 西日本ARISA出張報告会ツアーの実施

【2011年1月21日～2月1日】

12箇所で開催報告会・講演会・交流会開催。また教会など15団体を訪問した。新規維持会員6名、他40名がメーリングリスト参加、寄付、書き損じ葉書の寄付などの形で新たに後援会活動に加わって下さった。

2010年度アジア学院後援会収支報告(単位:円)

【収入の部】	
会費収入	4,744,500
特別	550,000
維持	4,161,500
賛助	33,000
一般寄付	9,025,495
事業収入	6,523,876
書き損じ	1,286,234
一品・HTC	828,644
コンサート	2,559,500
その他	1,849,498
雑収入	6,427
前年度より繰越	282,345
合計	20,582,643
【支出の部】	
アジア学院への援助金	13,589,686
運営費	866,957
広報費	164,420
通信費	516,987
事務費	62,450
手数料	104,060
その他	19,040
事業経費	2,797,625
人件費・福利厚生費	1,966,764
次年度への繰越	1,361,611
合計	20,582,643



スリランカ——サラッさん(94年卒、右)の農場を訪れるマッキーンさん(02年卒、左)



2011年2月に東北インドを訪問した職員遠藤優子

① 職員による卒業生訪問と同窓会の参加

アジア学院の卒業生、および同窓会は学生募集・選考の要である。毎年、卒業生からの推薦、情報提供に基づいて出願者の選考が行われる。そのため卒業生や送り出し団体との関係を強化すること、卒業生の活動や農村開発の現状を知ることが、学生募集・選考にとって非常に重要である。2010年度は職員3名がスリランカ、フィリピン、インドの卒業生を訪ね、同窓会に参加した。Graduate Outreach部門では、これらの卒業生訪問を通して、学生募集・選考部門の強化に取り組んだ。

スリランカ (2011年1月4～27日)

スリランカ各地の卒業生25名と2011年度研修候補生1名、2012年度研修希望者3名を訪問。同窓会(右欄参照)にも参加した。

フィリピン(2011年2月14～28日)

フィリピン・ルソン島の4地域7名の卒業生を訪問した後、卒業生の全国集会(右欄参照)に出席した。

インド マニプール州/ナガラランド州 (2011年3月2～18日)

東北インド・マニプール州とナガラランド州の卒業生23名と会うことができた。マニプール州では卒業生の会合に参加した。

② 同窓会

2010年度、以下の国と地域で卒業生の会合が開かれた。

ケニア (2010年8月) 初めての会合

スリランカ(2011年1月)

スリランカ中央高地コタガラにて開催。スリランカ同窓会は最も古くからある同窓会であるが、今回の総会で初めて少数派であるタミル人女性の卒業生が会長に選ばれた。年長の卒業生に支えられながら、新しい世代の卒業生がより中心的な役割を果たすようになってきている。

フィリピン(2011年2月)

フィリピンでは2009年度から地域ごとの会合が活発に開かれていた。いくつかの島に散らばって活動する卒業生たちをまとめ、プログラムの内容から会場、資金の準備まで何度も議論を重ねながら準備を進めていた。2010年度にルソン島北部バナウエで初の全国集会が実現した。

ネパール(2011年2月)

インド・マニプール州(2011年3月)

③ 日本人卒業生の海外での活躍

2008年度日本人卒業生2名が研究科生(GI)を経て、青年海外協力隊・野菜隊員としてアフリカのジブチ(2010年9月)とセネガル(2011年1月)に赴任した。

消費収支計算書

2010年4月1日～2011年3月31日

消費収入の部

(単位:円)

	2010年予算	2010年決算	2011年予算
学生生徒等納付金 (*1)	33,119,000	33,018,940	27,273,800
授業料	5,618,000	5,497,760	2,402,000
入学金	435,000	435,000	166,000
食事費	1,558,000	1,557,500	574,000
施設設備資金	1,558,000	1,557,500	574,000
国内個人学費指定寄付金	0	0	0
国内団体学費指定寄付金	11,404,000	11,404,000	8,360,000
海外個人学費指定寄付金	0	0	0
海外団体学費指定寄付金	11,037,000	11,037,219	14,034,000
渡航費	1,509,000	1,529,961	1,163,000
手数料	21,000	11,500	32,000
寄付金	74,047,000	91,449,097	168,700,000
国内国外一般寄付金 (*2)	27,582,000	29,060,026	26,200,000
アジア学院後援会	15,500,000	15,556,450	15,000,000
40周年記念事業特別寄付金	25,000,000	24,199,673	5,000,000
特別寄付金	5,965,000	22,632,948	122,500,000
(内災害復旧特別寄付金)		(19,667,848)	(100,000,000)
補助金 (*3)	3,180,000	3,180,000	3,384,000
資産運用収入	2,010,000	2,233,659	2,010,000
受取利息・配当金	10,000	127,359	10,000
施設設備利用料	2,000,000	2,106,300	2,000,000
補助活動収入 (*4)	23,271,000	24,104,914	21,128,000
貯蔵品振替差額	0	1,386,048	0
雑収入	2,550,000	2,349,519	2,550,000
帰属収入合計	138,198,000	156,347,629	225,077,800
基本金組入合計	0	24,677,765	0
消費収入の部合計	138,198,000	131,669,864	225,077,800

【注記】

(*1) 学生納付金には次のものが含まれる。

入学金：日本人学生納付金および海外学生に対する奨学金のうち入学金として指定されたもの

食事費：日本人学生納付金および海外学生に対する奨学金のうち食事費として指定されたもの

施設設備資金：日本人学生納付金および海外学生に対する奨学金のうち寮費・施設設備資金として指定されたもの

(*2) 北米アジア学院後援会 (AFARI) からの寄付 6,108,033 円が含まれる。

(*3) 国および地方自治体からの補助金ではなく、特定のプロジェクト実施に対し関連団体によって助成された助成金。

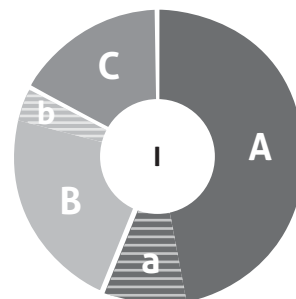
(*4) 農産物、加工食品、民芸品等の販売、セミナー開催等による収入。

(*5) 2010年度消費支出の内訳については、右頁を参照。

消費支出の部 (*5)

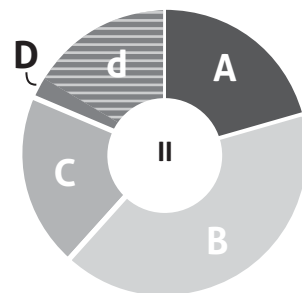
人件費	66,007,000	65,443,334	65,500,000
教育研究費	15,719,000	18,467,179	16,064,000
管理経費	30,050,000	27,817,382	48,685,000
(内災害復旧費)		(1,772,316)	(20,000,000)
支払い利息	1,315,000	1,812,236	2,600,000
資産処分差額	0	0	0
予備費	0	0	5,000,000
消費支出の部合計	113,091,000	113,540,131	137,849,000
当年度消費収入超過額	25,107,000	18,129,733	87,228,800
前年度繰り越し消費支出超過額	(295,283,509)	-295,283,509	
翌年度繰り越し消費支出超過額	(270,176,509)	-277,153,776	

国内および海外からの寄付金と補助活動収入の比率



- A** 国内からの寄付金 54%
- a** アジア学院後援会 10.2%
- B** 海外からの寄付金 26.7%
- b** 北米アジア学院後援会 4%
- C** 補助活動収入 19.3%

寄付金の種類別割合



- A** 奨学金指定寄付 20.7%
- B** 一般寄付 41.2%
- C** 40周年記念事業特別寄付金 19.7%
- D** 特別寄付 18.4%
- d** 内災害復旧特別寄付金 16%

学院内の流通

学院の農場の生産物は補助活動として販売されるもののほか、学院の食材及び加工食品の材料として用いられている。主な農産物の生産量は、穀類 9.1 トン、芋類 2.9 トン、豆類 600kg、ニンジン 2.2 トン、タマネギとニンニクで 1.1 トン、肉類 5.6 トン、卵 10 万個、魚 80kg、牛乳 4 トンである。これらの農産物の総額は約 1,450 万円である。

貸借対照表 2011年3月31日現在

資産の部	(単位:円)	
	前年度末	本年度末
固定資産	402,276,382	417,721,824
有形固定資産	320,640,836	338,616,346
(内建物仮勘定)	5,131,812	28,160,585
電話加入権	161,600	161,600
出資金	154,000	154,000
有価証券	64,930	64,930
40周年記念事業特定預金	9,353,608	6,616,779
奨学基金特定預金	71,901,408	72,103,489
流動資産	21,805,954	60,130,868
現金預金	9,470,868	50,394,206
未収入金	762,244	518,760
貯蔵品	7,407,606	6,021,558
販売用品	1,169,820	1,140,368
前払金	2,802,139	1,784,107
仮払金	193,277	271,869
立替金	0	0
資産の部合計	424,082,336	477,852,692
負債の部		
固定負債	108,630,000	98,390,000
長期借入金	50,050,000	71,050,000
学校債	58,580,000	27,340,000
流動負債	119,345,455	140,548,313
短期借入金	86,964,185	75,500,000
学校債	22,310,000	50,640,000
未払金	2,132,946	4,800,343
未払金消費税	525,500	462,300
前受金	6,918,172	8,561,497
預り金	494,652	584,173
仮受金	0	0
負債の部合計	227,975,455	238,938,313
基本金の部		
基本金の部合計	491,390,390	516,068,155
消費収支差額の部		
翌年度繰越消費収入超過額	-295,283,509	-277,153,776
内今年度消費収入超過額		18,129,733
負債の部・基本金の部・ 及び消費収支差額の部合計	424,082,336	477,852,692

左頁の注記の続き
(*6)2010年度の消費支出の内訳

人件費支出	65,443,334
教員人件費	22,100,762
職員及び嘱託人件費	38,212,422
その他人件費	5,130,150
教育研究費	18,467,179
奨学費	3,493,890
見学費	2,305,748
実験実習費	5,136,554
学生交通費	68,988
学生渡航費	3,091,150
教材費	135,644
研究費	389,486
学生厚生費	294,681
職員研修費	38,580
卒業生同窓会支援費	150,000
プロジェクト費	445,874
特別講師費	575,587
光熱水費	454,949
雑費	500,000
貯蔵品の振替差額	1,386,048
管理経費	27,817,382
消耗品費	508,819
光熱水費	3,009,673
旅費交通費	804,913
募金費	1,912,864
車両燃料費	1,161,966
福利費	16,320
通信運搬費	611,312
事務費	2,245,705
出版物費	446,305
車両修繕費	2,026,378
宮繕費	463,110
損害保険料	216,470
賃借料	763,892
公租公課	491,300
諸会費	162,936
会議費	192,080
報酬委託手数料	1,097,756
補助活動収入原価	2,072,259
行事費	91,000
渉外費	98,000
雑費・災害復旧費	2,530,241
減価償却費	6,894,083
借入金等利息支出	1,812,236
借入金利息支出	1,088,436
学校債利息支出	723,800
消費支出の部合計	113,540,131

監査報告


学校法人アジア学院寄付行為第7条の規定に基づき、
2010年度の事業および会計の状況について監査した結果、
適性に執行されたものと認めます。

2011年5月10日
学校法人アジア学院

監事：

船津祥 

監事：

原田晴近 

国内・国外支援団体一覧（順不問、敬称略・年間10万円以上）

① 国内

【教会関係】

(カ) 藤沢教会
(カ) 鍛冶ヶ谷教会
(カ) 麴町教会
(教) 西那須野教会
(教) 富士見丘教会
(教) 代々木上原教会
(教) 阿佐ヶ谷教会
(教) 希望ヶ丘教会
(教) 早稲田教会
日本基督教団関東教区
(聖) 東京聖三一教会
(聖) 聖アンデレ教会
(聖) 聖オルバン教会
(聖) 聖テモテ奉仕奨学金
日本聖公会 東京教区事務所
日本聖公会 管区事務所
(NCCJ) 女性委員会
(NCCJ) 国際わかちあい委員会
国際基督教大学教会
在日本インターボード宣教師社団
東京ユニオンチャーチ
西東京ユニオンチャーチ
神戸ユニオンチャーチ
藤沢ナザレン教会

【学校】

さつき幼稚園
宇都宮北高等学校
明治学院中学校・東村山高校
東洋英和女学院中上部
青山学院中高等部
西那須野幼稚園

【諸団体】

(株) サンケイスーパー
(株) 鳶ネットワーク
(社) スコーレ家庭教育復興協会ボランティアセンター
(財) あしぎん国際交流財団
IKE 設計開発事務所
草の根ネット麦の会
アジア婦人友好会
アジア学院後援会 (ARISA)
あじさいの会
アメリカンスクール・イン・ジャパン
おひさま かわて医院
サマリヤ会
ハビタット・フォー・ヒューマニティ・ジャパン
ワールドファミリーファンド
わかちあいプロジェクト
三井化学 (株)
三井化学チビットワンコイン
三菱 UFJ 国際財団
住友財団
全国友の会
全国友の会 中央部
全国友の会復興財団
松戸友の会

那須友の会
横浜友の会
国際協力 NGO センター NGO サポーター基金
国際有機農業映画祭実行委員会
東京霞ヶ関ライオンズクラブ
法福寺
立正佼成会 那須教会
都運送 (株)

【奨学金】

(カ) 聖心会 (あけの星修道院)
(公益信託) 久保田豊基金
(財) アジア農村交流協会
(財) ロータリー米山記念奨学会
在日アメリカン・スクール水泳チーム
大阪コミュニティ財団
新倉会
日本基督教団国際関係委員会
日本学生支援機構 (JASSO)
日本福音ルーテル社団 (JELA)
東京アメリカンクラブ
栃木県経済同友会

② 国外

【教会関係】

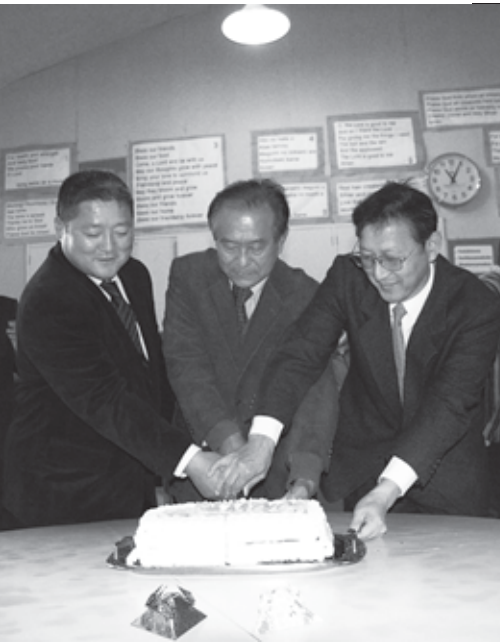
米国聖公会 The Episcopal Church – United Thanks Offering
米国合同教会・キリスト教会共同世界宣教 Global
Ministries of the United Church of Christ and the
Christian Church (Disciples of Church)
カナダ合同教会 The United Church of Canada
合同メソジスト教会救援委員会 The United
Methodist Committee on Relief
Cortland United Church, NE
Harris UMC, Honolulu, HI
Ocoee Oaks UMC, Ocoee, FL
St. James Thrift Shop, Keene, NH
Trinity UMC, Pearl City, HI
United Church of Ludlow, VT

【諸団体】

北米アジア学院後援会 (AFARI)
オランダ・アジア学院支援者会

【奨学金】

世界宣教会議 Council for World Mission
米国合同教会・キリスト教会共同世界宣教 Global
Ministries of the United Church of Christ and
the Christian Church (Disciples of Church)
The Hartstra Foundation
合同福音主義宣教会 United Evangelical Mission
合同メソジスト教会世界宣教 The United Methodist
Church- General Board for Global Ministries
英国聖公会福音宣教会 USPG – Anglican in World Mission
世界教会協議会 The World Council of Churches
Aldersgate UMC, Palo Alto, CA
Central Union Church, Honolulu, HI
The Episcopal Church of St. Martin, Davis, CA



左から笠井裕泰・笠井建築事務所社長、丹羽理事長、増田建徳氏(監理者)



建築中の農業研修棟

創立40周年記念事業と募金活動について

アジア学院は2013年9月に創立40周年を迎えるに当たって、1. 農業研修棟及び本館の建設と、2. 40周年記念事業の実施を決定しました。またこれらの事業のために、緒方四十郎氏、行天豊雄氏、林野宏氏の3名の方々を代表発起人として多くの発起人の賛同を得て2008年6月よりアジア学院創立40周年記念募金活動を行ってきました。

この間アジア学院理事会は、特に老朽化の激しい農業研修棟については早急に建替えが必要との考えに立ち、2011年3月末完成を旨として2010年10月新農業研修棟の建設着工を行いました。しかし、3月11日の東日本大震災の影響もあって建物の完成は年度を越し、2011年5月14日に無事奉獻式を執り行いました。なお、新農業研修棟建設費につきましては、これまで皆様からご協力いただきました40周年記念事業募金会計より支出させて頂きましたことを感謝をもって報告させていただきます。募金にご協力をいただきました皆様には、この場をお借りして心より感謝を申し上げます。

また、引き続き本館の建設を計画しておりましたが、3月11日の東日本大震災による本学院の建物被害によって建築計画を全面的に見直すことが必要となり、それに伴い資金計画を全面的に変更せざるを得なくなりました。そのためアジア学院理事会は、40周年記念事業募金委員会活動と共に40周年記念事業募金活動を終息させ、震災復興のための募金活動に全力を注いで取り組むことを決めました。一方、40周年記念事業の中の卒業生調査やシンポジウム開催などを含む40周年記念事業プログラムについては、今後とも協議を重ねて、その具体化に向けた取り組みを進めていく所存です。

2010年度 40周年記念事業寄付団体一覧

The Episcopal Church、The United Church of Canada、
The United Methodist Church、
北米アジア学院後援会 (AFARI)、おひさま かわて医院、
クレディセゾン、こぐま社、新倉電業、
日本ナザレン教団国際援助委員会、
立正佼成会一食平和基金運営委員会

役員・評議員

【理事長】		【評議員】	
丹羽 章	獨協医科大学名誉教授 社会福祉法人一麦福祉会理事長	丹羽 章	獨協医科大学名誉教授、社会福祉法人一麦福祉会理事長
【副理事長】		福田 龍介	東京ユニオン チャーチ役員
福田 龍介	東京ユニオン チャーチ役員	久世 了	(学) 明治学院学院長
【理事】		星野 正興	日本基督教団松崎教会牧師
大津 健一	アジア学院農村指導者養成専門学校校長	山田 正	元三井不動産(株)専務取締役
遠藤 抱一	法人財務室長	山根 正彦	(学) 香川栄養学園理事・総務部長
久世 了	(学) 明治学院学院長	大庭 セイラ	在日本インターボード宣教師社団代表理事
山田 正	元三井不動産(株)専務取締役	菊地 功	カトリック新潟司教区司教
星野 正興	日本基督教団松崎教会牧師	植田 仁太郎	前・日本聖公会東京教区主教
佐藤 範明	読売新聞記者・アジア学院後援会会長	福本 光夫	(学) 西那須野学園 西那須野幼稚園園長
田坂 興亜	元アジア学院理事長・校長	宮崎 幸雄	(財) 日本YMCA同盟名誉主事
丹羽 輝子	元(学) 東洋英和女学院講師	山本 俊正	(学) 関西学院大学教員
【監事】		李 秀夫	(株) インテック代表取締役
船津 祥	(財) とちぎYMCA理事長	菅野 勝之	日本基督教団西那須野教会牧師
原田 時近	(株) ナスハウス工業代表取締役	石川 宗朗	アジア学院卒業生 霜里農場
		巖 泰成	在韩国 松鶴監理教会牧師
		長嶋 清	元アジア学院職員
		荒川 朋子	アジア農村指導者養成専門学校副校長・事務局長
		遠藤 抱一	法人財務室長
		荒川 治	アジア学院職員
		スティーブン・カッティング	アジア学院職員

職員

【名誉学院長】	
高見敏弘	
【専任職員】	
大津 健一	校長
荒川 朋子	事務局長・副校長
荒川 治	農場長
ギルバート・ホガング	畜産
大柳 由紀子	教務
壁谷 早苗	畜産
山口 敦史	野菜・作物
中村 朱里	学生選考
スティーブン・カッティング	国際協力
佐藤 裕美	庶務
竹内 和彦	給食
バン・ヒョンウック	共同体生活
ジョナサン・マッカーリー	共同体生活
中村 満	那須セミナーハウス主事
遠藤 優子	販売・広報
佐久間 郁	後援会事務局長
【非常勤職員】	
君嶋 満恵	会計
田仲 順子	図書
福島 昌代	食品加工
【嘱託職員】	
遠藤 抱一	法人財務室長
ティモシー・ベルナルド・アパウ	共同体生活
ラコー・ザチボル	卒業生ネットワーク・給食
楠 利明 (5月まで)	事務局長

ボランティア

【長期ボランティア】		
エリザベス・ティーン(アメリカ)	農場	
カレン・ムーディ(アメリカ)	給食	
キース・ムーディ(アメリカ)	営繕	
ケビン・デシル(カナダ)	給食	
ジョイス・レイ(アメリカ)	給食、国際協力	
ボブ・レイ(アメリカ)	営繕、PC管理	
スティーブン・G・ハート(アメリカ)	農場	
デイビッド・ノース(アメリカ)	農場	
パスカル・ルコント(ドイツ)	学生選考	
フェーリックス・J・カイザ(ドイツ)	農場	
フラウケ・ギア(ドイツ)	学生選考	
ベンヤミン・ゴルダウ(ドイツ)	PC管理	
ハウヨン チョン(韓国)	農場	
マクニコル・ピーター・良治	PC管理	
レチェル・スミス(アメリカ)	農場	
佐々木 彩	農場	
君島 佳弘	補助活動	
土井 智代	農場	
大島 寿子	農場	
本川 南海子	給食	
森 哲也	農場	
植木 祐太	農場	
涌泉 香織	補助活動、後援会	
清水 羽美	農場	
畑 宏樹	給食	
直井 由美子	給食	
石川 純	農場	
糸川 あゆみ	出版物編集、総務	
鎌田 幸子	給食	
門奈 逸代	総務	
【通いのボランティア】		
里美・マッカーリー	給食、食品加工	
伊藤 正	農場	
伏見 卓	営繕	
佐原 市郎	総務	
加藤 篤彦	営繕	
堀内 紀江	農場	
大林 勇雄	PC管理	
宮下 保	営繕、農場	
小倉 恭子	総務	
小野崎 仁	営繕、農場	
戸川 勝安	営繕	
戸川 昌子	食品加工	
日根野 尚子	補助活動	
田口 均	PC管理	
石山 幸一	農場	
芝本 沙南	食堂、食品加工、農場	
藤田 力	農場	
鄭 鎮海	総務、共同体生活	
鈴木 由美	データベース管理	
長嶋 清	農場、図書	
長瀬 みか	図書	
高村 京子	給食、食品加工、総務	
高村 直子	営繕	

2010年 学生・研究科生

	ブラジル ルシネイ・ルイス・テレス フマニタス慈善協会		カンボジア ダネス・ハム メソジスト教会 地域保健・農業開発プログラム		コンゴ民主共和国 ンダイ・キヨニ・ジョン メソジスト合同教会		インド ボンモインガム・カリン ドーカス・ノーブル基金
	インド ムジボル・ニエッカ チェケサン伝道教会		インドネシア カルビン・スンピリン YAPIDI奉仕協会		インドネシア レインハル・シレガ アンコラ・プロテスタント教会		インドネシア サウリナ・ソリン パタク・プロテスタント教会 バンティ・アスハン・エリム 孤児院
	日本 日下 星乃		日本 酒井 玲奈		日本 菅谷 健		ケニア バヤ・コムリアス・カタナ 参加開発研究所
	キリバス モテ・テアンゴア キリバスプロテスタント教会		リベリア クーパー・カレトナ・シアコ カッティングトン大学 社会事業プログラム		リベリア メアリー・テネン・バカ チャーチ・エイド		マラウイ マクドナルド・フランシス・ンジャラ・バンダ マラウイ聖公会 シレ高地地区
	ミャンマー ラゼ・スルツ ネビドーYMCA		ミャンマー ニャン・ティアル ハッカ パプテスト連盟		ミャンマー ンガン・ティアル タンランバプテスト教会連盟		ミャンマー ソー・マナー・シェイ カレンバプテスト連盟
	ネパール サンディーブ・ラムシャル カリカ自助社会センター		ネパール スニタ・クマリ・ラナ 後進社会のための教育協会		フィリピン アニー・ジーン・リエグナス・ラガワン 水・森林農法・栄養・開発基金		フィリピン クリストファー・デニット・ドモロツ サンパレス州先住民連盟
	フィリピン レスター・コンスタンティノ・マンリゴット・ディピ フィリピンキリスト教連合		スリランカ ニルシニ・メダヘン・ゲダラ・カルナダス FORUT - 開発と連帯のための運動		スリランカ スマティ・バイテリンガム・シヴァクマール ストックホルム女性開発福祉協会		ウガンダ ムガワンガ・デビッド・ハニングトン・ルヴム ウガンダ聖公会 ムコノ地区
	ジンバブエ メロディー・ガバラ ジンバブエ合同教会						日本 竹之下 萌愛 研究科生 (卒業生インターン)

アジア学院の使命と目的

アジア学院の使命は、イエス・キリストの愛に基づき、個々人が自己の潜在能力を最大限に発揮できるような、公正且つ平和で健全な環境を持つ世界を構築することにあります。

この使命の実践に当たって、私たちは、共に分かち合う生き方を目指して、農村指導者の養成と訓練を行っています。主としてアジア、アフリカ、太平洋地域の農村共同体に生き、働いている男女の指導者たちが、毎年職員やアジア学院に集う他の人々と共に学びの共同体を形成します。

この共同体に根ざした学びを通して、私たちは農村の人々が地域で自分たちの持っている資源や能力を共通の目的のために分かち合い、活用する最善の方法を見出してゆくのです。

アジア学院は、食べものといのちについての独自のアプローチによって、我々自身と全世界に問いかけを続けていきます。

アジア学院のモットー：**共に生きるために**

Rebuild!



震災復興募金ご協力をお願い

アジア学院は、東日本大震災による被害のために危険箇所の応急工事、電気・水道などのライフライン復旧工事とコイノニアハウス(食堂部分)および本館の応急補修工事を実施しました。この緊急復旧工事のための災害復旧募金を行い5月31日の募金締切日までに目標額(500万円)をはるかに上回る65,997,784円のご支援をいただきました。また、アジア学院では緊急補修工事と平行して、専門家による再度に亘る建物診断を行い、チャペルや会議室があるコイノニアハウスについては、1階部分の使用禁止と建物全体の早急な建替えの必要性、本館については、2階部分(教室・図書室)の使用禁止と早急な建替えの必要性が指摘されました。

アジア学院創立以来のこの試練に理事会は、上記の結果を基に今後の復旧・復興計画策定に入り、本館の教室と図書室を含む教室棟およびコイノニアハウスの食堂と厨房を含む新たなコイノニアハウス、チャペル、豚舎、農業研修施設などの新設を含む震災復興計画を策定しました。復興計画の総額(支出)は、5億3000万円です。これに約2億円の文科省の災害復旧公的支援を申請し、残りの3億3000万円を自己資金で賄いたいと考えています。そして8月末で1億円に達している災害復旧寄付金を加えて、不足分(2億3000万円)を国内、国外に募金させていただくこととしました。

募金目標額： 2億3000万円

募金期間： 2011年9月より2013年3月末まで

この復興計画のもとに、地域の人々と共に歩むアジア学院であることを目指し、引き続きより良い農村開発指導者を養成し、世界の開発途上地域に生活する人々に奉仕して行きますので、皆様方の祈りと共に、ご支援を心よりお願い申し上げます。



■震災復興募金の送り先

(銀行振込) 足利銀行 西那須野支店 2962221 学校法人 アジア学院 理事長 丹羽章
(郵便振替) 西那須野 00340-8-8758 学校法人 アジア学院

2011年9月

学校法人 アジア学院 理事長 丹羽 章